

皆様おはようございます。大寒の候を迎え、いよいよ今週はあのクリスマス寒波の再来かというところを迎えております。手元のスマートフォンの天気予報によりましたら、水木は最低気温がマイナス11度、12°Cとの表示がありました。是非ともご健康やお足もと、水道管の破裂に備えてお気を付け頂きたいと思います。

さて黙示録も17章です。前章の終わりの所に大バビロンへの主の裁きがありましたが、17-18章はその詳細です。大バビロンとは、大いなる都の事であり、これはローマに代表される地上の支配権や文化の象徴です。1節に出てきます大淫婦もまたこの大バビロンの事です。

1 それから、七つの鉢を持つ七人の御使のひとりがきて、わたしに語って言った、「さあ、きなさい。多くの水の上にすわっている大淫婦に対するさばきを、見せよう。

2 地の王たちはこの女と姦淫を行い、地に住む人々はこの女の姦淫のぶどう酒に酔いしれている」。

大いなるユーフラテスの川のほとりに大国を築いたバビロンのように、ローマもまた繁栄の中にありました。姦淫という言葉が二度現れます、性的不道徳と神様への不信仰が対になって示されています。この姦淫の大淫婦と対照をなすのが黙示録21章9節にあります、「小羊の妻である花嫁」です。

エペソ5:25 夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。

5:26 キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

5:27 また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。

3 御使は、わたしを御靈に感じたまま、荒野へ連れて行った。わたしは、そこでひとりの女が赤い獸に乗っているのを見た。その獸は神を汚すかずかずの名でおおわれ、また、それに七つの頭と十の角とがあった。

この地上の支配力を持つローマが、赤い獸に乗っています。

12:3 また、もう一つのしるしが天に現れた。見よ、大きな、赤い龍がいた。それに七つの頭と十の角とがあり、その頭に七つの冠をかぶっていた。

その獸は神を汚す数々の名で覆われていました。

4 この女は紫と赤の衣をまとい、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものと自分の姦淫の汚れとで満ちている金の杯を手に持ち、

そしてその獸に乗った女もまた、憎むべき、忌み嫌うべきもの、姦淫と不信仰の汚れで満ちた金の杯を手に持っていました。

5 その額には、一つの名がしるされていた。それは奥義であって、「大いなるバビロン、淫婦どもと地の憎むべきものらとの母」というのであった。

額はすべての人の目に留まるところです。

7:3 こう言った。「我々が、神の僕たちの額に刻印を押してしまうまでは、大地も海も木も損なってはならない。」

7:4 わたしは、刻印を押された人々の数を聞いた。それは十四万四千人で、イスラエルの子らの全部族の中から、刻印を押されていた。

13:16 また、小さな者にも大きな者にも、富める者にも貧しい者にも、自由な身分の者にも奴隸にも、すべての者にその右手か額に刻印を押させた。

13:17 そこで、この刻印のある者でなければ、物を買うことも、売ることもできないようになった。この刻印とはあの獸の名、あるいはその名の数字である。

良い刻印であろうと、悪い刻印であろうと、どこに所属するものであるかという刻印が存在していることを、默示録はしばしば取り上げています。

6 わたしは、この女が聖徒の血とイエスの証人の血に酔いしれているのを見た。この女を見た時、わたしは非常に驚きあやしんだ。

7 すると、御使はわたしに言った、「なぜそんなに驚くのか。この女の奥義と、女を乗せている七つの頭と十の角のある獸の奥義とを、話してあげよう。

ローマは、大きな迫害の中、聖徒たちの血を流し続けました。心地よい酔いをもたらす酒に自由に手を伸ばして酔いしれるように、彼らは聖徒たちの血を流し続けました。

17:8 あなたの見た獸は、昔はいたが、今はおらず、そして、やがて底知れぬ所から上ってきて、ついには滅びに至るものである。地に住む者のうち、世の初めからいのちの書に名をしるされていない者たちは、この獸が、昔はいたが今はおらず、やがて来るのを見て、驚きあやしむであろう。

「昔はいたが、今はおらず、そして、やがて底知れぬ所から上ってきて、ついには滅びに至る」この獸、悪魔の存在は、1章にあるキリスト・イエスと対照をなしています。

1:4-5 ヨハネからアジア州にある七つの教会へ。今おられ、かつておられ、やがて来られる方から、また、玉座の前におられる七つの靈から、更に、証人、誠実な方、死者の中から最初に復活した方、地上の王たちの支配者、イエス・キリストから恵みと平和があなたがたにあるように。わたしたちを愛し、御自分の血によって罪から解放してくださった方に、

1:6 わたしたちを王とし、御自身の父である神に仕える祭司としてくださった方に、栄光と力が世々限りなくありますように、アーメン。

「地に住む者のうち、世の初めからいのちの書に名をしるされていない者たちは、この獸が、昔はいたが今はおらず、やがて来るのを見て、驚きあやしむであろう。」

昔いて、今はいず、やがて底知れぬところから昇ってきて対に滅びに至る。

12:12 それゆえに、天とその中に住む者たちよ、大いに喜べ。しかし、地と海よ、おまえたちはわざわいである。悪魔が、自分の時が短いのを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである。」

12:13 龍は、自分が地上に投げ落されたと知ると、男子を産んだ女を追いかけた。

悪魔は、底知れない生命力をもって、投げ落とされても戻ってきて悪事を犯し続けることが分かります。その悪あがきには目をみはるものがあり、驚きとなります。

しかし私たちにはイエス様がおられます。何も悪いことをされなかったのに人の罪の身代わりとして死に、よみに下られ、しかし三日目に復活されたのです。

17:9 ここに、知恵のある心が必要である。七つの頭は、この女のすわっている七つの山であり、また、七人の王のことである。

17:10 そのうちの五人はすでに倒れ、ひとりは今おり、もうひとりは、まだきていない。それが来れば、しばらくの間だけおることになっている。

17:11 昔はいたが今はいないという獸は、すなわち第八のものであるが、またそれは、かの七人の中のひとりであって、ついには滅びに至るものである。

17:12 あなたの見た十の角は、十人の王のことであって、彼らはまだ国を受けてはいないが、獸と共に、一時だけ王としての権威を受ける。

17:13 彼らは心をひとつにしている。そして、自分たちの力と権威とを獸に与える。

七人の王。これはローマの皇帝を指します。五人は倒れ、6番目の皇帝が現在立っていて、もう一人がやって来ます。短いだけの皇帝も何人か出ます。彼らは心を一つにして、自分た

ちの力と権威を獸に与えます。あの「昔はいたが、今はおらず、そして、やがて底知れぬ所から上ってきて、ついには滅びに至る」獸は、ひと時権力を得てますますほしいままにふるまいます。それは聖徒たちの血がさらに流され続けることを意味します。

17:14 彼らは小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る」。

困難と苦難の時はありますが、それはいつまでも続くわけではありません。小羊に戦いをいどんだところで、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つのです。
また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得ると、力強く書いてあります。

17:15 御使はまた、わたしに言った、「あなたの見た水、すなわち、淫婦のすわっている所は、あらゆる民族、群衆、国民、国語である。

17:16 あなたの見た十の角と獸とは、この淫婦を憎み、みじめな者にし、裸にし、彼女の肉を食い、火で焼き尽すであろう。

あらゆる民族、群衆、国民、国語の民の上に君臨し、どっかと座り込む大国ローマ。しかし獸はその自分的一部であるローマの王たちを憎み、内部分裂して「この淫婦を憎み、みじめな者にし、裸にし、彼女の肉を食い、火で焼き尽すであろう」とあります。あの高価な紫と赤の衣、金と宝石と真珠とで身を飾ったその豪華なものははぎとられ、見捨てられます。傲慢に神を捨て、冒涜し、侮辱する者の行き先がここに記されています。

ホセア 2:3 そうでなければ、わたしは彼女の着物をはいで裸にし、その生れ出た日のようにし、また荒野のようにし、かわききった地のようにし、かわきによって彼女を殺す。

詩編 27:2 わたしのあだ、わたしの敵である惡を行う者どもが、襲ってきて、わたしをそしり、わたしを攻めるとき、彼らはつまずき倒れるであろう。

17:17 神は、御言が成就する時まで、彼らの心の中に、御旨を行い、思いをひとつにし、彼らの支配権を獸に与える思いを持つようにされたからである。

17:18 あなたの見たかの女は、地の王たちを支配する大いなる都のことである」。

「彼らの支配権を獸に与える」、そのとんでもない苦しみの出来事もまた。御言が成就する時までの出来事でした。支配者たちが結束し、聖徒たちを取り囲み、一網打尽にするような恐れも、御言が成就する時までの出来事でした。大いなる栄える都と絶大なる勢力。惡が栄

え、その悪あがきがいかにひどい者であろうとも、それは主の御心の中にあり、御心が完成するまでの悪あがきです。

私たちは時代の中に確かに君臨される方です。「小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ」のです。この方を畏れかしこみ敬い、信じて進みましょう。

「また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る」アーメン。

詩編 27:1 主はわたしの光、わたしの救だ、わたしはだれを恐れよう。主はわたしの命のとりでだ。わたしはだれをおじ恐れよう。

27:2 わたしのあだ、わたしの敵である悪を行う者どもが、襲ってきて、わたしをそしり、わたしを攻めるとき、彼らはつまずき倒れるであろう。

27:3 たとい軍勢が陣営を張って、わたしを攻めても、わたしの心は恐れない。たといいくさが起って、わたしを攻めても、なおわたしはみずから頼むところがある。

27:4 わたしは一つの事を主に願った、わたしはそれを求める。わたしの生きるかぎり、主の家に住んで、主のうるわしきを見、その宮で尋ねきわめることを。

27:5 それは主が悩みの日に、その仮屋のうちにわたしを潜ませ、その幕屋の奥にわたしを隠し、岩の上にわたしを高く置かれるからである。

27:6 今わたしのこうべはわたしをめぐる敵の上に高くあげられる。それゆえ、わたしは主の幕屋で／喜びの声をあげて、いけにえをささげ、歌って、主をほめたたえるであろう。

27:7 主よ、わたしが声をあげて呼ばわるとき、聞いて、わたしをあわれみ、わたしに答えてください。

27:8 あなたは仰せられました、「わが顔をたずね求めよ」と。あなたにむかって、わたしの心は言います、「主よ、わたしはみ顔をたずね求めます」と。

27:9 み顔をわたしに隠さないでください。怒ってあなたのしもべを退けないでください。あなたはわたしの助けです。わが救の神よ、わたしを追い出し、わたしを捨てないでください。

27:10 たとい父母がわたしを捨てても、主がわたしを迎えるでしょう。

27:11 主よ、あなたの道をわたしに教え、わたしのあだのゆえに、わたしを平らかな道に導いてください。

27:12 わたしのあだの望むがままに、わたしを引き渡さないでください。偽りのあかしをする者がわたしに逆らって起り、暴言を吐くからです。

27:13 わたしは信じます、生ける者の地でわたしは主の恵みを見ることを。

27:14 主を待ち望め、強く、かつ雄々しくあれ。主を待ち望め。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。大国ローマが悪の

力を帶びて不屈の力をもって怪しげに迫り、聖徒たちの殉教の血を流
そうとも、小羊の妻である花嫁は守られ、死者の中から最初に復活した
方の御力の中守られ、神様の言葉が成就する時まで、小羊と共にいる者、
召された者、選ばれた者、忠実な者たちもまた、勝利を収めるというお
導きに感謝いたします。悪がひと時栄える中も驚き怪しまず耐える
力をお与えください。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、
この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますように
お願いいいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主
イエス様の御名によって祈ります。アーメン